

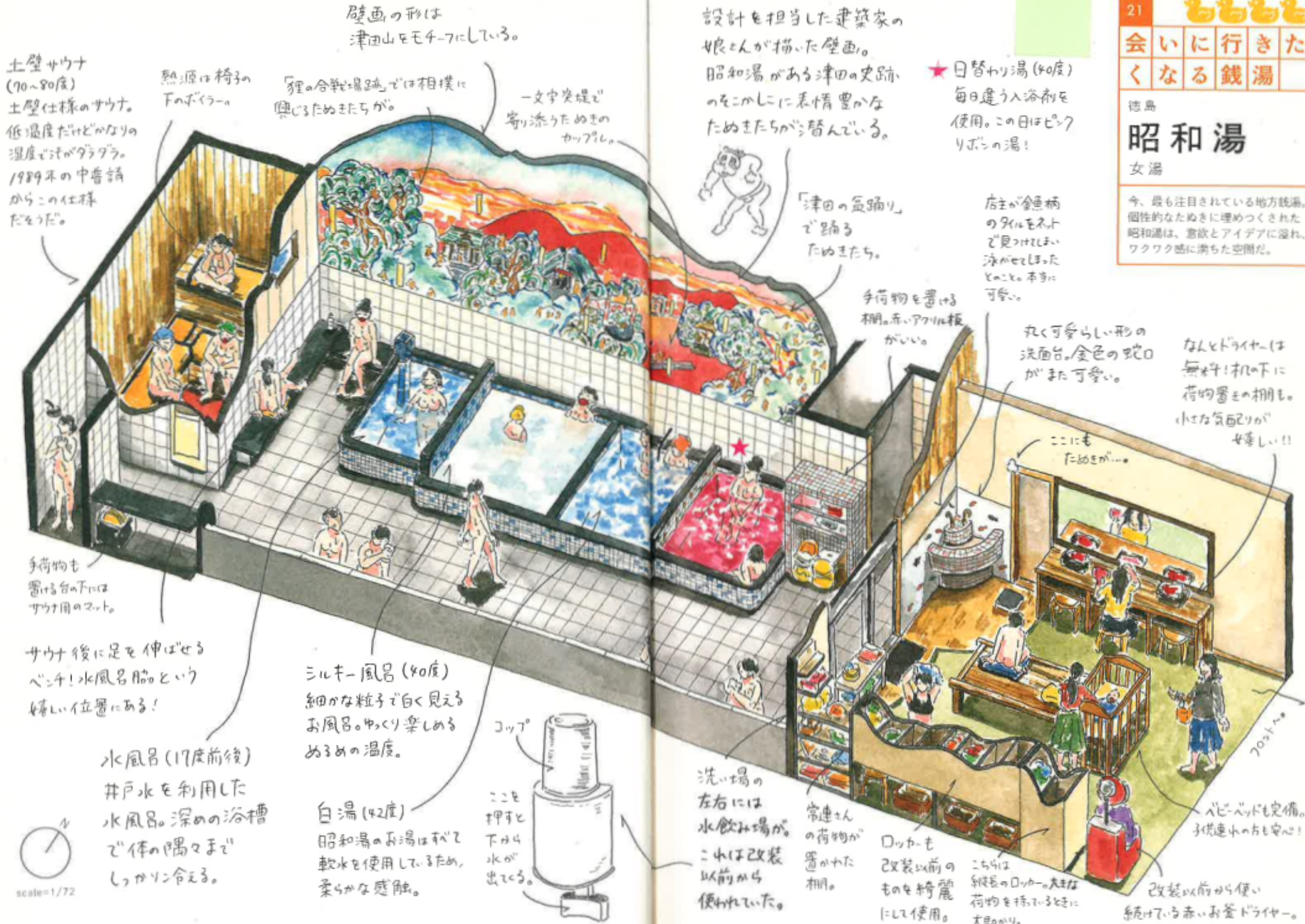
# 会いに行きたくなる銭湯

徳島

## 昭和湯

女湯

今、最も注目されている地方銭湯。個性的なために埋めつくされた昭和湯は、意欲とアイデアに溢れ、ワクワク感に満ちた空間だ。



土壁サウナ (70~80度)  
土壁は様々のサウナ。  
低温度だけどかなりの  
湿度が蒸気がカラカラ。  
1989年の中途頃から  
この仕様だそう。

熱源は椅子の  
下のボイラー。

「狸の合戦」場跡では相撲に  
興じるためまたちが。

一文字突堤で  
寄り添うための  
カップレ。

設計を担当した建築家の  
娘さんが描いた壁画。  
昭和湯がある津田の史跡  
のそまじりに表情豊かな  
ためまたちが替んでいる。

★日替わり湯 (40度)  
毎日違う入浴剤を  
使用。この日はピンク  
リボンの湯!



「津田の盆踊り」  
で踊る  
ためまたち。

店主が金色柄  
のタイルをスト  
で見てほしい  
泳がせました  
とニコホホに  
可愛い。

手荷物を置く  
棚。赤いアクリル板  
がいい。

丸く可愛い形の  
洗面台。金色の蛇口  
がまた可愛い。

なんとドライヤーは  
無印!机の下に  
荷物置き棚も。  
小さな洗面台が  
可愛い!!

手荷物を  
置く台の下には  
サウナ用のシート。

サウナ後に足を伸ばせる  
ベンチ!水風呂脇という  
嬉しい位置にある!

シルキー風呂 (40度)  
細かな粒子で白く見える  
お風呂。ゆくり楽しめる  
ぬるぬるの温度。

白湯 (42度)  
昭和湯のお湯はすべて  
軟水を使用しているため、  
柔らかな感触。



洗い場の  
左右には  
水飲み場が。  
これは改装  
以前から  
使われていた。

常連さん  
の荷物が  
置かれた  
棚。

ロッカも  
改装以前の  
ものを綺麗  
にして使用。

これは  
縦長のロッカー。大きな  
荷物を積むときに  
大目盛り。

ベビーベッドも完備。  
子供連水の方が安心!

改装以前から使い  
続けている赤いお釜ドライヤー。

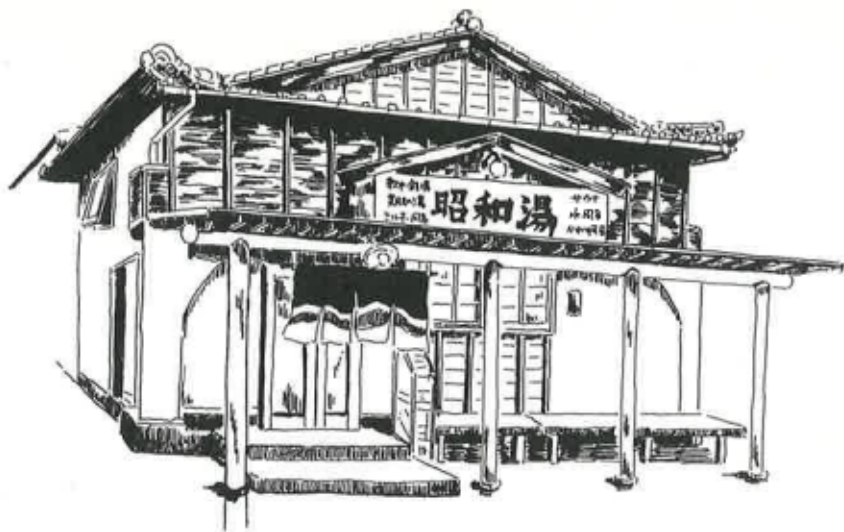


## 会いに行きたくなる銭湯

徳島市、昭和湯。二〇一八年八月に改装されたばかりで、地元の農家や雑貨屋とコラボしたイベントを行うなど意欲的な試みを続けている地方銭湯だ。SNSにも力を入れており、改装中には作り上げられていく姿を毎日更新していた。その投稿があまりに楽しく、完成した折に、ぜひ昭和湯に会いたいと徳島に足を運んだのだ。

昭和湯は川と海に囲まれた漁師町・津田にあり、低層の住宅が並びやや蛇行した道沿いに佇んでいる。二重の切妻屋根は年季を感じさせる渋く変色した木だが、玄関と軒下は真新しく、カフェのような洗練されたデザインだ。中に入ると、高い天井の真ん中でファンが回る心地よい木目調の待合室が、フロントの脇にはたぬきのイラストが飾られていた。浴室は細長のつくりで、脱衣所を背にして右手に浴槽が四つ並び、左手にはカランがずらっと並んでいる。奥にはサウナ室があり、シンプルな構成だ。

そのなかで異彩を放つのは、男湯との仕切り壁に描かれる色彩豊かなペンキ絵。夕焼けに染まった山を背景に、穴観音、御台場、津田八幡など、この地域にちなんだ名所が描かれている。そしてあらゆる場所を舞台に小さなたぬきたちがさまざまな表情を浮かべて思



い思いの過ごし方をしている。相撲をとって吹っ飛ばされるたぬき、盆踊りを踊る着物姿のたぬき、大縄跳びに興じるたぬき……。お風呂に入りつつ隅から隅まで眺めてしまおう。

現在、中心となつて昭和湯を運営しているのは四代目の新田啓二さん。老朽化により、浴室のタイルを張り替えるタイミングで改装に着手した。若い人も入りやすい銭湯を作りたいという思いから地元の建築家である内野輝明さんに依頼をし、その建築家の娘で美大生の内野小春さんが壁画を担当した。徳島には「阿波狸合戦」という伝説があり、その合戦に登場する六右衛門狸の癖が穴観音であったため、たぬきがキーワードとなり、今では昭和湯のマスコットキャラクターのようになったそう。

新田さんはさらに、この先の昭和湯についても語ってくれた。現在、昭和湯ではSNSを通して徳島でユニークな試みをされている方と繋がってさまざまなイベントを行っているが、これからもそうした取り組みを継続していきたいそうだ。そんな未来を語る新田さんの目はキラキラ輝いていた。数年後、昭和湯がさらにどのような変化しているかとても楽しみだ。もしかしたらさらに増殖したたぬきたちに埋もれているかもしれない。そんな未来を想像して思わず笑みがこぼれた。